新型コロナウイルス感染拡大に対する対応

～学びを止めない～

学生が学業・学生生活継続の意思を強く持つことができるよう、総額約５億円の経済的支援を実施

コロナ禍と呼ばれる未曽有の事態に直面する中で、学生の皆さんが学業・学生生活継続の意思を強く持つことができるよう、本学は総額約５億円の経済的支援を行うことといたしました。

Webを活用した授業においては、在学生がしっかりと学修できる環境を確保し、例年と変わらない教育を提供するよう努めます。また、新型コロナウイルス感染症の影響が収まり次第 、例年どおりの修学ならびに課外活動がスムーズに再開できるよう、キャンパスにおける施設・設備の維持・管理ならびに環境整備にも引き続き努めていきます。

1. 修学特別支援金の給付

Webを活用した授業対応に向けた支援金、および新型コロナウイルス感染症拡大による経済的影響に対応した学生生活費支援金として、2020年5月1日時点で在籍する学生、大学院生（科目等履修生、研究生等を除く）全員に対し、一律5万円を給付。

2. Webを活用した授業受講のためのモバイルルーター無償貸与

経済的事情により下宿先や自宅でWeb授業を受ける環境を用意することが難しい学生を対象に、モバイルルーターを春学期の期間、無償で貸与。

3. 緊急修学援助奨学金制度の採用枠拡充

学費負担者の家計急変や、新型コロナウイルス感染症拡大による収入減に対する支援を目的として、既存の『緊急修学援助奨学金※』採用枠を20名から500名に拡充。
※1学期分授業料相当額の半額
（1部生177,500円、2部生87,500円）給付

4. 新入生に向けたWebを活用した学生生活・課外活動支援

2年生以上の先輩サポーターや職員サポーターによるWebを活用した、学生生活に関する不安や疑問点などの相談会を実施。

5. 図書館による自宅学習支援「貸出郵送サービス」

自学自習や課題に取り組むための教科書以外の副読本を読む機会を確保するため、学生が図書館へ来館せずに、借りたい資料を利用出来るよう、図書館蔵書検索システム（OPAC）を活用し、自宅まで郵送するサービスを実施。

教育振興募金ご協力のお願い

先行きが見えない状況下、学生の学びを止めないためには、今回の総額約5億円の経済的支援だけでなく、さらなる支援の拡大と継続が必要です。大阪経済大学の学生が、誰一人として経済的理由により就学をあきらめることのないよう、皆様の厚いご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げます。

教育振興募金へのお申込み方法

①銀行振込の場合
同封の用紙をご利用ください。
（指定銀行の場合、振込手数料無料）

②インターネット（クレジットカード払いも可）の場合
インターネットの場合のみ、恐れ入りますが、30,000円以上からのお取り扱いとなりますのでご注意ください。
https://www.osaka-ue.ac.jp/information/contribution/application.html
からお手続きください。

③本学窓口受付（現金）の場合
J館2階経理課にてお手続きください。

④古本募金（本学はきしゃぼんの協働パートナーです）の場合
※古本募金とは、書籍やCD・DVDなど使い終わったものをリサイクル換金してご寄付いただく方法です。
●インターネット
http://www.kishapon.com/osaka-ue/
からお手続きください。
●電話
フリーダイヤル**0120-29-7000**へ
「大阪経済大学に寄付したいのですが」とお伝えください。

お問い合わせ先　大阪経済大学教育振興募金事務局（総務課）
06-6328-2431（代）

※本紙へのご意見は、kouhou@osaka-ue.ac.jpへお寄せください。（本紙記事の無断転載を禁ず）

SOUHATSU ～創発～ | KEIDAI DAYS vol.52
大阪経済大学 経営企画部 広報課 TEL：06-6328-2431（代表）https://www.osaka-ue.ac.jp/
〒533―8533 大阪府大阪市東淀川区大隅2―2―8

SOU ～創発～ HATSU

KEIDAI DAYS

大阪経済大学 経営企画部 広報課
〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8
TEL 06-6328-2431（代表）
https://www.osaka-ue.ac.jp/
vol.52

2　ゼミナール教育：ゼミナールで身につける学び取る力
4　課外活動：人間科学部客員教授講演会　他
5　社会実践：2030 SDGsカードゲーム企業交流会
　　進路支援センターの今
7　社会連携：#STAY HOME 私たちができること
　　from 大阪経済大学　他
10　学生広報隊が行く！：学生が気になる教授　他
12　大学運営：2019年度 卒業式・学位授与式 他
14　大樟会だより／DAIKEIDAI INFORMATION
16　新型コロナウイルス感染拡大に対する対応

ゼミナールで身につける 学び取る力

「ゼミの大経大」を聞いたことはありますか？　大阪経済大学が力を入れているゼミナール教育。今回は4名の先生にゼミ活動について伺いました。

岡島成治
経済学部
経済学科 准教授
専門分野：
環境経済学・環境政策

時事的な社会現象や自身の疑問を統計データに基づいて分析・研究

私は、科学的な統計データを用いて人々や企業の行動を分析しています。従来の経済学は利己的な人間像を前提としていますが、私は自分の行動により他人が救われることに喜びを感じる人たちもいると考え、利他性に着目した実証分析を行っています。

そして、どうすればより多くの募金が集まるか、あるいはホテルの電力消費量を削減できるかなどの現場で行うフィールド実験や実験室で行う実験により、人が持つ利他性に訴えかける選択肢のほうが効果があがることを実証しました。私の研究が、より良い人間社会を作っていく一助になればと思っています。

ゼミ生たちも、時事的な社会現象や自身の疑問などを、統計データに基づいた実証的なアプローチで分析・研究しています。直近では、「クレジットカードを普及させると消費って増えるの？」「早生まれは損なの？」などの興味深いテーマにチャレンジしました。

私がゼミ教育で大事にしているのは、ゼミ生たちの探究心を刺激することです。驚き、感動することが「もっと知りたい」につながり、経済学を学ぶことが面白くなるはず。実際、ゼミ生たちは想像以上に大きく成長し、ゼミ生同士で助け合って研究を進めていけるようになります。ただし私のゼミは2年次で統計検定3級に、3年次で2級に合格することが条件となっています。理由は、データ分析に必要な基本知識がないと、ゼミ内で共通の会話ができないからです。また日本政策学生会議(ISFJ)の政策フォーラム、日経ストックリーグ、総務省データコンペの優勝を大きな目標としています。

このような目標を一つずつ達成していくことで、ゼミ生たちが自分で考えデータ分析して、発言・提案できる人間になってほしい。私のゼミは自他共に認める日本一厳しいゼミ。そして厳しい指導に頑張って付いてきてくれるゼミ生たちは、教員としての「私の誇り」です。

杉本俊介
経営学部
経営学科 准教授
専門分野：
ビジネス倫理学

企業の多種多様な課題を自分事として考える

ゼミでは、「ビジネス倫理学」というテーマのもと、ESG(環境・社会・ガバナンス)、従業員の働き方、企業の消費者に対する配慮など、今さまざまな形で顕在化してきたビジネスに関わる倫理的な課題の発見・解決に取り組んでいます。

私は学生一人ひとりが「自分自身が今どういう倫理的な課題をもっているか」を見つけてほしいと考えています。与えられたものを覚えるのでなく、自らの価値観を見つめ直し、踏み込んで考えることが大事だと思うからです。

卒業論文に取り組むにあたり、学生は過労死、食品偽装、ユーチューバーなど、実にさまざまな問題に関心を持ちます。そんな彼らに対し、私はまず「その問題で、いったい誰が困っているのか？」と問います。そして対象を絞り込み、関係者に取材するなど、現場に踏み込んでいくことを勧めています。

評価のポイントは「計画を立て、計画通り行うこと」。本格的な研究は、最初は難しいことですが、やり続ければ必ず立派に完成します。あきらめずに頑張ってほしいといつも学生たちを励ましています。

また、ゼミ活動の一環として、大学と企業を結ぶ全国規模の取り組み「志プロジェクト」(主幹：富士ゼロックス株式会社)にも力を入れています。これは金融機関、印刷会社などにより選ばれた企業の魅力を学生が探り、会社案内を作成するというものです。これにより、学生は早めに企業との接点を持つことができ、企業は学生からどう見られているかがわかるので、学生にも企業にも好評です。プロジェクトへの参加をきっかけに、取材先の企業に就職した学生もいますが、それに加えてこの取り組みを通じて、学生たちが自律的に活動を進めるようになることが大きいと考えています。

米川雅士
情報社会学部
情報社会学科 准教授
専門分野：
ソフトウェア、信号・制御工学

オンリーワン研究を通じてAI社会の未来を創造

私は、AIがどんな分野で役立つのかを、実際にアルゴリズムを構築しながら研究しています。ゼミを選んだ学生たちには、「身近な問題関心をもとにオリジナル研究を進めていくように」と常にアドバイスしています。

ある学生は「電子書籍はなぜ普及しないのか」に取り組みました。「音楽の場合、電子化されることで素人でも作曲できるなど、ユーザーの裾野を広げる新たな楽しみ方が広がったが、書籍は電子化されても新しい楽しみを生まなかった」と仮説を立て、モデル作成、データ収集、評価分析まで行いました。

「人はどういう時に驚くのか」をテーマにした学生は、アンケートをとることと並行して、人の表情を撮影した動画を集め、顔認証システムを自作するなど、研究を深く掘り下げました。個人情報である車のナンバープレートを画像の中から自動検出し、それを隠すシステムを考案した学生もいます。この学生は研究内容の先端性が認められ、並みいる企業やベテラン研究者を押しのけ、学会で最優秀賞を獲得しました。

大切なことはプログラムに関する技術を身につけることではなく、よく調べ、よく考えることです。一つの研究をまとめるには、考える力を土台に、幅広い分野の知識、経験を積み上げることが必要です。そのため、学生には常にハードな取り組みを要求します。彼らが提出した1ページのレポートに、100個ものコメントをつけて返すこともあります。

ゼミに入ってから、学生はどんどん変わっていきます。主体的に学ぶうちに広い視野と行動力が身についてくるのです。その視野の広さと行動力は、社会に出て、自らの道を切り開くための大切な武器になると信じています。

田島良輝
人間科学部
人間科学科 准教授
専門分野：
スポーツビジネス

地域・社会の課題を解決！スポーツの力でまちづくりを

学校の統廃合や空家問題、孤独死など、日本の地域・社会はさまざまな課題を抱えています。地域における「人のつながりの希薄化」が原因の一つと考えられ、私はこのような課題をスポーツを通して解決していきたいと思っています。現在、最も力を入れているのが「総合型地域スポーツクラブを活用したまちづくり」の研究です。地域のつながりの希薄化などを、スポーツを通して解決していくため、地域のスポーツクラブが事業体として自立し財務的に持続できる方策を模索しています。

このような研究を始めたきっかけは、大学時代ソフトボールの国際大会に出場したことです。海外の恵まれたスポーツ環境に衝撃を受け、何歳になっても好きなスポーツに取り組める地域のスポーツクラブづくりに携わりたいと思いました。そしてスポーツを通じて社会に貢献することで、スポーツのプレゼンスを高めていきたい。

私のゼミのテーマも「スポーツとまちづくり」で、基本のコンセプトは「スポーツで地域の課題を解決していく」です。企画立案やプロジェクトへの参画といった実習＆演習が中心で、スポーツマネジメントの企画大会への参加、トライアスロン大会などスポーツイベントの調査・ボランティア活動などを行っています。目的は、競技だけではない多様なスポーツの世界を知ること。卒業後の社会で役立つよう、スポーツを顧客目線で考える力を培ってほしい。

ゼミのキャッチフレーズは「書を携えて町に出たい」です。経験だけでは現実を変えることはできません。現場での経験を活かして、論理的に考え、現状を変えていく力を身につけてほしい。指導教員として何より嬉しいのは、ゼミ生の成長を目の当たりにした時。学生を応援し背中を押せるゼミ教育を行いたいです。

人間科学部客員教授講演会

トップアスリートに学ぶ 成長するために必要なもの

2019年度 人間科学部客員教授講演会が11月30日(土)に行われ、トップアスリートをめざす学生や一般市民などが聴講した。

東京オリンピック・パラリンピックへの関心が高まる中、北京オリンピック(2008年) リレーの銀メダリストである朝原宣治・本学客員教授と、同オリンピック男子10,000m日本代表の竹澤健介・本学陸上競技部ヘッドコーチが講演。続くパネルディスカッションでは、オリンピックをめざした学生時代の体験談などを披露した。

司会を務めたのは本学人間科学部の九鬼靖太講師で、最初に2人の経歴などを紹介。そして講演では、まず朝原客員教授が、自身の学生時代のトレーニング方法などを紹介。「優秀な指導者にアドバイスをもらい、自分で工夫しながら実践することで強くなっていった。海外でのトレーニングでは、多様な選手たちと出会い、競技者として人間として成長できた。大きなケガも体験したが、失敗から学び、自分の強みやクセもわかるようになった。現在、それらの経験を伝えるため選手の育成にも携わっている」と、さまざまな立場でスポーツと関わってきた経験と思いを語った。

竹澤ヘッドコーチは、「大学ではクラブ練習以外に、山を走るなど自分で工夫してトレーニングを続けた。箱根駅伝で3年連続区間賞をとったことで、オリンピックという夢ができた」と選手時代を振り返り、「トップアスリートになるには環境が大事。それは自分でつくるもの」と強調した。

パネルディスカッションでは、大学時代に影響を受けた人や印象に残っていること、選手としての挫折などに触れ、トップアスリートをめざす学生へのアドバイスとして、朝原客員教授は「今は情報があふれていてチャンスも多い。思いがあれば勇気を出して行動することが大事」。竹澤ヘッドコーチは「制約や限られた環境の中で最大限の努力をすることが大事」と締めくくった。

準硬式野球部創部70周年記念式典

歴史を誇りにさらなる躍進を誓う

全国大会3回目の優勝をめざして

2020年2月15日(土)、大阪経済大学準硬式野球部の創部70周年記念式典が開催された。会場には、総勢70名のOBや現役学生が列席。OB会会長兼監督の中野弘之氏による主催者挨拶で開幕した。

世代を超えてOBと学生が交流

来賓挨拶では、山本俊一郎学長が祝辞を述べた後、学生に向けて「野球を通じて生き方も学んでいることと思います。全国優勝の知らせを心待ちにしておりますので、全力で頑張ってください」とエールを送った。

主将の岡崎広樹さん(経営学部4年)が今年の抱負を語り、「今年のチームは投手が豊富。野手は繊細なプレーを得意とし、全国大会出場と優勝をめざして頑張ってまいります」と決意を新たにした。

準硬式野球部は、本学創立と同年の昭和24年に創部。昭和29年の第6回全日本学生選手権大会で初の全国優勝を成し遂げた。平成7年には2回目の優勝を果たし、ここ3年は全日本大学準硬式野球選手権大会に連続出場。今年、同大会で優勝が実現すれば、実に25年ぶりの悲願達成となる。

2020年2月18日(火)、SDGsをテーマに大学生と大阪府の企業が交流する「~持続可能な未来のために考える~2030 SDGsカードゲーム企業交流会」を大阪府の平成31年度学生地域就職推進事業の一環で実施した。

「~持続可能な未来のために考える~2030 SDGsカードゲーム企業交流会」

ゲームを通して「SDGs」の本質と可能性を理解

当日は、学生19名、企業7名の合計26名が参加。開催前から各テーブルで学生と企業参加者の会話が弾み、和やかな雰囲気の中スタートした。「SDGsとは何か」や今回のキーワード「世界はつながっている」「私も起点」を確認した後、カードゲームを実施。

学生、社会人といった垣根を越えて、それぞれが意見を出し合いながらゲームは進み、会場は活気であふれた。最終発表では、全チームが目標を達成し理想的な世界を実現。「このカードゲームは多様性のあるメンバーで取り組むとよい結果が生まれる傾向」というファシリテーターのコメントに、参加者はお互いに違いを受け入れながら取り組めたことが実感できた様子だった。

振り返りで、学生は「世界のバランスをとることがすごく難しいと感じた。事業活動そのものがSDGsに準拠していると企業の方から聞いたので、就職先を考える場合にも参考にしたいと思った」と感想を述べ、企業参加者は「私たちの企業は、環境と安全と健康をキーワードにしている。SDGsに取り組む中で17ゴールのうち10はすでに会社の事業として行っていることがわかった。SDGsはハードルが高いものではないと企業も気づいてきている」と話した。

他にも、「自分の目標が達成できていないと、周りに目を向けることはできないと実感した。就職活動でも自分の目標を立てて達成し、ゆとりを持てるようになりたい」「世界をよくするためには、マイナス覚悟でやってくださいと他のチームにお願いすることも大事だと思った。自分がやった何気ないことが誰かのプロジェクトを止めてしまうことがあった」などの感想も聞かれた。

実施後の学生アンケートでは、全員が「非常に満足」、「満足」と回答。また、ほぼ全員が企業研究で企業について調べる際、「SDGsに取り組んでいるかどうかを気にする」という回答が多くみられた。

SDGsを知っていますか？

SDGs(エスディジーズ)とは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された“2030年までに達成すべき17の国際社会共通の目標”のこと。17の目標では、貧困や飢餓といった問題から、働きがいや経済成長、気候変動に至るまで、21世紀の世界が抱える課題を包括的に挙げている。

SDGsは、普遍的な目標として「誰も置き去りにしない」という約束を掲げている。先進国と途上国、そして国や政府、企業と私たち個人が共に手をとって目標達成のために努力をしていかないことには、貧困の解消や格差の是正といった深刻な問題は解決できない。SDGsを特別なものとしてではなく、「自分ごと」として捉え、それぞれの活動、生活の中に浸透させていくことが私たち一人ひとりに求められている。

進路支援センターの今

新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けて日々状況が変化する就職活動。進路支援センターでは持続可能な学生支援を模索しながら学生に向き合っている。

2月から3月にかけては説明会やインターンシップに参加して視野を広げることが重要な時期。しかし大手就職情報サイトの運営会社が主催する合同企業説明会が相次いで中止になるなど、就職活動に大きな影響が出始めた。大学内で行う合同説明会そのものを中止する大学もある中、本学では企業担当者、学生双方にマスク着用と会場入口での手指の消毒など予防対策に細心の注意を払って、3月3日まで学内企業説明会を実施した。例年ならば、説明会終盤には参加学生が減る傾向だが、今年は3月に入ってから参加人数が増えたことからも学生の不安が伝わってきた。学生からは「直接企業の担当者に会えなくなり不安な気持ちもあったが、大学の合同説明会でいろいろ聞いてみたい。機会があるのはありがたい」といった声が聞かれた。また、全432社中42社が新型コロナの影響により欠席する中、参加した企業の採用担当者からは「学生と接点が持てる機会を提供いただき、感謝しています。学生に弊社のことを知っていただく機会にします」という声が多く聞かれた。

その後、緊急事態宣言が発令されたことに伴い、大阪経済大学では2020年4月13日(月)から就職にかかる個人面談をすべてWeb面談(予約制)に切り替えている。4月13日から5月8日までの面談件数は472件、模擬面接20件で、就職活動中の4年生以外にも既卒生や低学年の学生支援に進路支援センタースタッフが総出で対応している。

面談希望者は、面談を希望する当日の1時間前までに学生ポータルサイト(KVC)から予約手続きを行い、面談実施までに事前準備(パソコンやスマホからの動作確認、履歴書やエントリーシートをスタッフに送付)したうえで、Microsoft Teamsを利用して面談に臨む。

また対面面接をWeb面接に切り替える企業が急増したことに対応し、Webでの模擬面接も実施。学生は、個人面談を通じて申し込みを行い、事前に履歴書やエントリーシートを送る。当日は本番さながらのWeb面接を行った後、スタッフからフィードバックを受ける。

Webによる個人面談の様子。履歴書の内容を確認しながら学生にアドバイスを行っている。

Web面談を開始した頃は、学生がシステムを使いこなせなかったり、Web面談と思わず大学に来るケースも見受けられたが、多くの学生はトラブルなく就職課からの呼び出しに応えて、スムーズにWeb面談を実施できている。通信環境や機器操作のトラブルがあると、コミュニケーションがスムーズに進まないという短所はあるが、ウイルス感染防止措置として有効であるほか、学生は予約制になったことによりスケジュール管理がしやすくなり、通学時間がかからないため時間の有効活用ができるといった長所もある。

進路支援センタースタッフからは、「多くの企業がWeb面接に切り替えている状況下、学生の立場や気持ちを体感できる」といった声も聞かれ、また企業のWeb面接にあたっては、事前準備で①機器操作に慣れておく、②画面の映り(部屋の明るさや顔の向き)や音声を確認しておく、また本番では③普段より声に抑揚をつけ早口は避ける、④姿勢に気をつけることをポイントに挙げている。

刻々と状況が変化する中で、ゼミ担当の教員がゼミ生に声掛けをすることで就職課の面談を利用するケースもあり、教職協働でいかに学生に寄り添い持続可能な学生支援を実施するか模索しながら、日々、学生に向き合っている。

Webによる模擬面接の様子。事前に面接時間を確認し、同じ時間で模擬面接を実施している

#おうちで体を動かそう!

●オノマトペ体操

コンテンツ第1弾として、若吉浩二教授(元五輪水球日本代表)が提唱する「オノマトペ体操」の動画を公開した。「オノマトペ体操」は、ぎゅっぎゅっ、しゅっしゅっといった擬声語を出しながら体を動かす運動で、中でも「能勢町バージョン」は、かけっこを速くすることに特化したプログラム。学校の教室でできるように工夫されているため、自宅のちょっとしたスペースでも実施できる。現在、親子編、SOFT編、STRONG編、HYPER STRONG編の4種類を公開している。関東の小学校からも問い合わせがあったほか、30件近いネットニュースなどに取り上げられた。

●コグニサイズ

コンテンツ第2弾には、髙井逸史教授が考案した椅子に座ったまま誰でも安全に楽しく運動ができる工夫を加えた脳トレ体操「コグニサイズ」の動画を公開した。「コグニサイズ」(開発:国立長寿医療研究センター)は、考えながら運動することにより認知機能の活性化が期待できる運動で、フレイル予防にも効果的とされる。

社会に届け!

#STAY HOME 私たちができること from 大阪経済大学

心身を健やかにする本学の知恵

本学では、これまで行ってきた地域連携の取り組みの中から「#STAY HOME 私たちができること from 大阪経済大学」と題して、在宅で過ごす時間に役立つコンテンツを公開し、Twitterなどのsnsを中心に拡散され、Webメディアでも取り上げられた。

#STAY HOME 私たちができること
from 大阪経済大学
https://www.osaka-ue.ac.jp/life/stayhomedkd/

#おうち時間を穏やかに過ごすために

●絵本とともにおうちで過ごす

コンテンツ第3弾以降は、心理臨床センターの教員が「おうち時間を穏やかに過ごすために」をテーマにコラムを掲載。鵜飼奈津子教授は「絵本とともにおうちで過ごす」と題して、家の中でもできるだけ一人になれる場所や時間を見つけることが大切と述べたうえで、家で過ごす時間、普段は手にすることのないような絵本とともに、過ごしてみることを提案した。

●緊急事態時のこころのケア

坪田祐季講師は「緊急事態時のこころのケア」と題して、今まで当たり前だった活動ができない緊急事態の時に、心や身体はどんなサインを示すのか、知識を持っておくだけでも、少し気持ちが楽になったり、無理せず気持ちと付き合ったりすることができることを伝えた。

●タッピングタッチによるセルフケア

中川一郎教授は、「タッピングタッチによるセルフケア」と題して、ゆっくり、やさしく、ていねいに、左右交互にタッチすることを基本とした、ホリスティック(統合的な)ケアの方法であるタッピングタッチによるセルフケアを動画で紹介した。

KSCC（経大スポーツ・文化センター）の
大経大キッズカレッジ　出前授業

大学で学んだ知識、技術を地域に還元

地域の小学生を本学に招いて実施するスポーツ教室「大経大キッズカレッジ」、依頼を受けてクラブに所属する学生が地域の小学校に出向いて実施する「出前授業」。いずれも子どもたちにスポーツの楽しさを伝え、今後、さまざまなスポーツに挑戦していくきっかけとなるようなスポーツ教室をめざしている。

フラッグフットボール教室　アメリカンフットボール部

2019年5月25日(土)に開催。子どもたちは部員とキャッチボールでウォーミングアップを行い、その後6チームに分かれて、フラッグフットボールのルールを教わりながらブロック、パスなどを練習。その後、ルール説明や作戦会議を経て試合を実施した。部員の陽気な声援を背に、終始子どもたちは大盛り上がり。暑さに負けずフラッグフットボールを楽しんだ。

第1回・第2回かけっこ教室　陸上競技部

2019年 9月 21日(土)に「第1回かけっこ教室」、11月16日(土)に「第2回かけっこ教室」をそれぞれ開催。ジョギング、体操でウォーミングアップ。その後、腕振りや足上げの練習、ミニハードルなどを使った基本ドリルを行い、50m走を測定した。最後のリレー対決では、各チームに部員が加わり、子どもたちと一緒に楽しく、汗を流した。

チアリーダー教室　チアリーダー部

2019年 8月 29日(木)、井高野小学校２年生を対象に開催。冒頭では、音楽に乗せてのダンスと「ポンポン」を使用したポン文字のパフォーマンスを披露し、チアリーダーの魅力を伝えた。その後、部員が個別にダンス指導を行い、全体練習も行った。本番では練習の成果もあり、児童の振り付けは完璧。子どもたちは、笑顔にあふれた最高のパフォーマンスを披露した。

野球教室　硬式野球部

2019年11月23日(土)に開催。硬式野球部員が走塁やキャッチボールの指導をお手本を披露しながら行った。続く打撃練習では、ティーバッティングとロングティを、守備練習では、基本動作を行った後、シートノック形式を実践。最後の試合では、子どもたちはこれまで教わったことをもとに、打って、走って、捕って、投げてと大ハッスルしていた。

ダンス教室　ダンスサークル『Battle Ground』

2019年 11月 26日(火)、井高野小学校1年生、6年生を対象に開催。パフォーマンスを披露した後、グループに分かれて課題曲の振り付けを練習。少人数グループでの練習のため、子どもたちと学生のコミュニケーションが活発に行われていた。最後に全員で合わせての発表では、すべてのグループがそれぞれのパートの振り付けを披露し、1つの作品を作り上げた。

チアリーディング教室　チアリーダー部

2019年11月30日(土)に開催。チアリーディングのイメージをつかんでもらうためチアリーダー部が演技を披露。その後、スタンツ練習や「ポンポン」を使用したダンス練習を行った。中でもスタンツ練習が好評で、トップに上がった子どもたちからたくさんの笑顔と達成感が見受けられた。最後の発表会でも元気よく楽しく演技を披露していた。

タグラグビー教室　ラグビー部

2019年 12月 21日(土)に開催。パス・キャッチ練習やタグを取る練習などで基本を学び、1対1や2対1練習で少しずつ実践練習を重ねた。初めは楕円形のボールや、ボールを前に投げられないルールに困惑している様子だったが、部員が交じって練習することで徐々に上達。最後の試合では、子どもたちは終始笑顔に包まれラグビーの楽しさを感じていた。

フラッグフットボール教室　アメリカンフットボール部

2019年 10月 15日(火)、11月 26日(火)に大道南小学校の児童約30名を対象に開催。見本を見せながらルールやプレーを説明し、4チームに分かれて技術練習を行った。子どもたちは使い慣れないボールに戸惑いながらも徐々に感覚をつかみ、終盤には驚くほど上達。第2回の授業では試合を行い、大盛り上がりとなった。

バスケットボール教室　バスケットボール部

2020年2月15日(土)に開催。基礎練習ではチームに分かれ、部員が細かく丁寧に指導。ドリブル練習やパス練習ではチーム対抗戦が行われた。そして、練習で身につけた技術を披露すべく、最後には試合を行った。学生が少し低めのリングを作り、バスケットボール未経験の子どもたちや低学年の子どもたちも楽しめるような試合となり、盛り上がった。

バスケットボール教室　バスケットボール部

2020年 2月 13日(木)、井高野小学校4年生を対象に開催。準備運動を経て、学生が3ポイントシュートやダンクシュートを披露。子どもたちにプレーでバスケットボールの魅力・醍醐味を伝えた。その後、ドリブルやシュートなどの練習を行い、基本的な動きやコツを丁寧に伝えた。基本練習後の試合では部員も交ざって大盛り上がりとなった。

フットサル教室　フットサル部

2020年 1月 17日(金)、井高野小学校3年生を対象に開催。60人の子どもたちを4つのコートに分け、パス・トラップ練習、シュート練習の後、試合を行った。学生が見本を見せたり、競争形式の練習を多く取り入れるなど、子どもたちが楽しめるよう工夫を凝らした授業が展開された。試合では声援が響きわたり、大熱戦となった。

一般社団法人大阪府中小企業診断協会と「連携・協力に関する協定」を締結

本学と大阪府中小企業診断協会は、大阪で初となる中小企業診断士の登録養成機関の設置において連携し、「仕事を続けながら学べる」１年制の中小企業診断士登録養成課程を2019年2月に開講、今年2月には第1期が修了し、24名の中小企業診断士が誕生している。

今後はこの協定のもと、相互のさらなる連携・協力により、中小企業に関する学術研究や中小企業支援などの分野に関する包括的かつ継続的な事業に取り組み、本学が掲げる100周年ビジョンの柱の1つ「商都大阪の原動力になる」を推進していく。

地域課題の解決を担うプラットフォーム機能を強化

商都大阪の原動力となるために

和歌山県白浜町と「連携協力に関する協定」を締結

本学と白浜町は「南紀白浜トライアスロン大会」でのアンケート調査をきっかけに、これまで教育や研究の分野で連携してきた。2017年度には、既存のスポーツツーリズムイベントを活かした交流人口の増加策と、白浜町のブランドイメージづくりについて提案した政策が、笹川スポーツ財団主催の「Sport Policy For Japan」で特別賞を受賞している。

今後は学校教育および生涯学習の分野で両者が協力し、地域社会の発展と大学における教育・研究に寄与することを目的とした本協定のもと、白浜町が抱える課題を共に考え、解決に向けて活動する中で、まちづくりや人材育成につなげていく。

学生が気になる教授

学生広報隊は「気になる教授」として大阪経済大学の教授4人へ取材を試みた。今回の取材はオンラインのビデオ通話やメールで実施。いつもと異なる取材方法に緊張するものの快く受けていただき、興味深いお話を伺った。

今、目の前のチャンスに飛びつく

Q　研究テーマを教えてください。
A　地域産業論と中小企業政策です。
Q　授業で工夫していることはありますか？
A　学生に面白いと思ってもらうことです。僕自身が経験したことを話し、教科書にはないことを話しています。学生が参加する対話型の授業を意識していますね。
Q　中小企業や地域の課題を踏まえ、学生にできることはありますか？
A　今は社会に出た時のトレーニングです。ゼミやさまざまな体験を通し、自分が何に興味・関心を持ち、どう考えていくか、社会的思考を身につけていってほしいですね。
Q　最後に学生にメッセージをお願いします。
A　今は今しかないので、目の前にチャンスがあれば行くことです。チャンスに飛びつき実際に行って話をする、そうすることで人と会うのが楽しくなる。迷ったら行くことです！

文：松野 花凜（経済学部4年）

経済学部
梅村 仁教授

映像表現の無限の可能性

Q　研究分野は？
A　メディアテクノロジーと表現が融合したメディアアートという芸術領域です。メディアアート作品は「芸術」の枠組みを超え、私たちの生活のさまざまな場面に浸透しています。
Q　担当科目は？
A　メディア・デザインコースでコンテンツ制作系の科目を担当しています。2年生向けの演習では実際に映像コンテンツを制作します。学生には仲間と共に考え「つくる」プロセスを経験することで映像表現の無限の可能性を発見してほしいです。
Q　ゼミについて教えてください。
A　学生映像コンテスト『ISCA』への出品を一つの目標にしています。このコンテストは毎年ゼミ内選抜を行い応募しています。クリエイティブ系企業への就職にも直結します。ゼミ生には目標を高く持って頑張ってほしいです。

文：三宅 佳織（人間科学部３年）

人間科学部
北市 記子教授

今、学生に伝えたいこと

Q　研究内容を教えてください。
A　今はディープラーニングやAIを使って社会問題の解消に取り組んでいます。
Q　教員になろうと思ったきっかけは何でしたか？
A　最初は教員志望ではありませんでしたが、大学院で研究をしたり、後輩に指導をしたりする中で、人と一緒に研究をするということが楽しいと感じたことがきっかけです。
Q　現在新型ウイルスに翻弄されている学生に向けて、一言お願いします。
A　学校に行けないことがマイナスではなく、行けないからこそ体験できることがたくさんあります。そういったものの良い機会だと捉えて頑張ってほしいですね。

文：仲村 良（情報社会学部3年）

情報社会学部
中村 健二教授

自分の経験を大経大生へ伝えるために

Q　教員になった理由は？
A　本学の相原正道先生から客員教授でお招き頂いたことが始まりです。スポーツビジネスの領域が日本のスポーツ界で盛り上がり騒がれ始めた時に、成功要因の大きなリソースの一つが人材であると考えていました。人材育成を教育という分野で、自分の長い経験・知見を研究という分野で後世に残せればと思った次第です。
Q　今後の目標は？
A　私のビジネス経験から得た知見を大経大生にしっかりと伝えること。その学生がいつか私のもとを訪れて、「先生！あの仕事は私がやったんです」という報告を聞くことを夢に描いています。

文：砂田 優花
（人間科学部３年）

人間科学部
半田 裕教授

学生広報隊による学生広報隊への取材

新たな挑戦を仲間たちと

大学生活で、新しいことに挑戦できる場所の一つ、学生広報隊。広報隊への思いや日常について隊員同士で取材した。一人一人目標に向けて、仲間たちと協力しながら高みをめざす、そんな広報隊であなたも挑戦しませんか？

興味のある活動を実際に体験

清水裕一さん（情報社会学部４年）は元々メディアに対して興味を持っていて、関われるチャンスがあり、なおかつ何か新しいことに挑戦したいと思っていたことがきっかけとなり、広報隊に入隊した。広報隊の活動の中で、新聞社に赴いたりイベントを手伝う際に自分たちの知らないところで多くの人が動いているということの驚きと、記者講座で写真の撮り方や記事の書き方を学べたことが印象に残っているという。

文：保田 菜々子（人間科学部３年）

仲間たちと切磋琢磨して挑戦できる場所

副部長の三宅佳織さん（人間科学部３年）が所属したきっかけは、元々メディアや広告に興味があったからという。実際にイベントを運営した際、仕事をするうえで人との連携の大切さを実感したとのこと。これからの目標として、広報隊をもっと知ってもらい活動域を広げていくと語った。新入生の方に向けて、「広報隊の学生は各々挑戦したいことがあり、日々切磋琢磨して挑戦に励んでいます。新入生の皆さんも学生生活をどんな時間にするかは自分次第なので、その時間を良いものにするために一緒にトライしませんか」と語ってくれた。

文：濱田 将太（情報社会学部４年）

イベント告知のため新聞社でPR

SOUHATSU制作のためOBを取材

これからを担う広報隊員

徳綱菜桜さん（人間科学部2年）は、学内チラシを見て広報隊に興味を持ち、その足で勧誘デスクに赴いた。そこで優しい先輩方との出会いを機に広報隊入隊。そんな彼女が大学生活で成長したと感じることは「自由な時間が増え、行動力がついたこと」である。自由な時間にはドライブをすることが好きな彼女。学業以外に秘書検定などの資格取得をめざしている。時間の使い方を自分で選択していく大学生。時間を活用して行動する彼女の今後の活躍、成長が楽しみである。

文：神代 眞佑（経営学部4年）

お笑い芸人から学んだ話術を活かして

澤本さんは、尊敬する元広報隊部長が所属していたのがきっかけで3年生から加入し、イベントで大学のマスコットキャラクター「はてにゃん。」を補助するなどの活動をした。小学生からお笑いに関心があり、今では毎週劇場で観るほど。
しゃべくり漫才からいつしか他人の役に入り込む漫才が得意なお笑いコンビ「エンペラー」が好きで、その芸人さんから「緊張すれば、緊張しない人を演じきること」を学んだ。広報隊ではこのようなことを活かして
「苦手意識があったインタビューがしたい」と話した。

文：萩森 仁（経済学研究科1年）

学生広報隊って？

学生広報隊は、大学を学生目線でPRする団体です。学生19名が広報課職員協力のもと活動しています。本誌の「学生広報隊が行く！」ページの編集・取材、教育懇談会のキャンパスツアーの案内係、大樟祭での模擬店出展、つながるブログ運営など、さまざまな活動に取り組んでいます。活動日は、毎週金曜日昼休みから3限の時間（12:15～14:20）、J47教室で行っています。普段の活動時間が授業と被ってしまっている人も、所属しています。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の期間はオンラインで不定期に活動しました。興味を持った大経大生は、ぜひ広報課（kouhou@osaka-ue.ac.jp）までご連絡ください！

部長　仁部沙彩（経営学部4年）

先が見えない時こそ未来を切り開く力を

3月14日(土)に行われた大阪経済大学2019年度 卒業式・学位授与式は、新型コロナウイルスへの感染リスクを考慮し、卒業生と保護者が一堂に会する全体式典を中止。卒業証書・学位記の授与は、ゼミ別(ゼミ未所属の卒業生は別教室にて)、研究科別で実施された。式典終了後に予定されていた学部ごとの卒業記念パーティーも中止となる中、卒業生たちは共に学んだ仲間たちとの別れを惜しみ、各所で互いに記念撮影などをする姿が見られた。

2019年度 学部卒業生は、経済学部683名、経営学部1部520名、経営学部2部129名、情報社会学部274名、経営情報学部1名、人間科学部210名の計1817名。研究科修了者は、経済博士前期課程1名、経営学研究科45名、経営情報研究科3名、人間科学研究科(心理)5名、(共生)3名の計57名。ゼミの担当教員や研究科長などから、卒業証書や学位記が手渡されると、いつもとは異なる卒業式に戸惑いながらも、カメラに向かってポーズを決めるなど、各教室には笑顔と歓声があふれていた。

ゼミの担当教員や研究科長も、それぞれに思いのこもったはなむけの言葉を卒業生たちに贈った。経済学部の森詩恵学部長は「社会生活では、このようなリスクに、どのように対応していくかが大事」。情報社会学部の草薙信照学部長は、「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」という、自身が好きな言葉をもとに、卒業生たちにじっくりと語りかけた。経営学研究科の田中健吾研究科長は「磨き上げた専門知識をもとに正しい情報を発信できる人になってほしい」。人間科学研究科の髙井逸史研究科長は「培った知見を臨床現場で生かしてほしい」。また各研究科・学部の総代には、学長室において、山本俊一郎学長から黒正賞が授与された。

総代にインタビュー

木内亮太さん(経済学部卒)
卒業式が中止になったことは正直、残念です。でも2年生からZEMI-1の実行委員をしてきたことで成長できました。春から国税局に就職し、公正な納税の実現をめざして頑張りたいと思っています。

岡澤南帆さん(人間科学部卒)
サッカー部のマネージャーをしていて、本気で取り組んでいる人たちを見て感化されました。春からインテリアの会社に勤めますが、自分にできる小さいことを積み上げて結果を残したいですね。

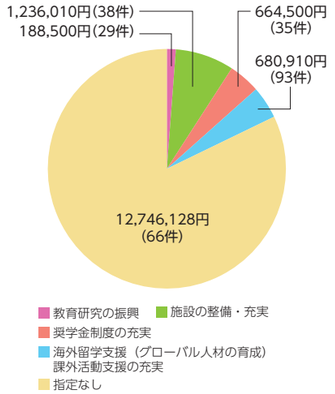
100年、そしてその先へ。
創立90周年シンボルマーク決定!!

本学が2022年に創立90周年を迎えるにあたり、100周年ビジョン「DAIKEI 2032」を踏まえ、未来につながるシンボルマークを一般公募した。176件の応募の中から、厳正な審査の結果、永田康二氏(大阪府：フリーデザイナー)に応募いただいたデザインに決定。作品コンセプトは「90に向け前進し続けるところを表現し、その下には無限大100の字を反映することで、今後100年に向けて右上がりに継続されるベクトルをイメージした」というもの。このシンボルマークと共に未来に向け、100年、そしてその先へ、大阪経済大学は新たなスタートを切る。

教育振興募金 2019年度報告

本学では、教育振興募金事業において「①教育研究の振興」「②奨学金制度の充実」「③施設の整備・充実」「④海外留学支援(グローバル人材の育成)、課外活動支援の充実」に取り組むべく、皆様からのご支援をお願いしております。2019年度は個人・団体の皆様から延べ261件、総額15,516,048円※1のご寄付をいただきました。本学への温かいご支援に対し、教職員一同心より御礼申し上げます。

なお、募金には銀行振込による募金や古本の買い取り金額を募金額として充当する古本募金、税制上、法人様のメリットが大きい受配者指定寄付金といったさまざまな方法がございますが、いずれも寄付者のご意向に沿い、本学で掲げた前述の各取り組みに活用させていただいております。主な例として、教員の研究費や奨学金運用基金への充当、各施設の整備に伴う工事費用の支払い、クラブに支給する活動援助金(2019年度はサッカー部、ラグビー部に対しご寄付を頂戴しました)といったものが挙げられるほか、2019年度は、株式会社ジャパネットたかたの創業者であり、本学OBである髙田明氏のご協力により「大阪・関西万博」をテーマとした寄付講座も開催することができました。このような取り組みを継続することができるのも、ひとえに寄付者の皆様のご厚意・ご協力のおかげであり、重ねて感謝申し上げます。



2020年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、緊急事態宣言が発令されるなど、大変な状況が続く中で、本学では、学生の皆さんが学業・学生生活継続の意思を強く持てるよう、総額約5億円の本学独自の経済的支援を行うことといたしました。この支援について、皆様にもどうかご寄付というかたちでご協力賜りたく存じます。ご賛同いただける方につきましては、同封の「払込取扱票(振込通知書)」やP.16のお申し込み方法にてお手続きいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

この難局を乗り切るべく、教職員一同鋭意努めてまいりますので、今後ともご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

※1 件数・金額の算出基準については、本学決算資料に準じます。

高松亨チャレンジ基金が支援

学生が描く“夢”への挑戦
~アフリカ諸国の今をこの目で見たい~

高松亨チャレンジ基金は、大阪経済大学の教授であった故高松亨氏の御遺志による寄付金により、学生が描く“夢”への挑戦と、可能性を秘めた学生の成長を支援することを目的として2019年度に設立された。受給者の第1号となった経済学部4年生の高橋卓夫さんは、2020年1月12日から3月3日までアフリカ大陸を中心に周遊。周遊中には、本学の公式学生ブログページで現地の様子や、ホームステイ、インターンシップなどの体験談を掲載した。

学生ブログ ▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶
「アフリカ周遊記レポート」
http://blog.osaka-ue.ac.jp/

高橋さんは帰国後、改めて今回の経験について振り返り、思いを語った。

私は高松亨チャレンジ基金でアフリカ周遊して今思うのは、大学の4年間が人生において一番貴重な期間であることです。周遊中に多くの人と交流しましたが、その時に言われた「アフリカでは何かに焦点を当てて全力でやることができないんだ」という言葉が一番印象的でした。それに比べてみれば私たち学生は基礎的な条件は整っています。とにかく一歩踏み出して全力でやってみることで、視野が広がり、いろんなことが楽しくなってきます。それがサークル、部活、ゼミ、バイトなど好きなことで良いと思います。私はゼミの教授である岡島先生と先輩に刺激され一歩踏み出しました。誰でもいいので大学の間に人生のキーマンを見つけてほしいです。そして挑戦したいことがある方は高松亨チャレンジ基金に応募してみてください。これまた一歩を踏み出すチャンスです。応援しています。

※2020年度は高松亨チャレンジ基金の募集はありません。

大樟会だより

同窓会の奨学金制度を変更 遠隔地学生奨学金募集人員10名増に

本年4月から国の高等教育の修学支援新制度がスタートした。これにより各大学が独自に実施していた経済支援の奨学金制度の大半を国が肩代わりすることになった。

このため、同窓会の奨学金制度である大学の遠隔地学生奨学金と緊急修学援助奨学金に対する支援のうち、同窓会の奨学金は遠隔地出身の新入生に給付する遠隔地学生奨学金の支援に拠出金を集中させる。

具体的には、募集人員は従来、同窓会10名、大学30名、計40名から、同窓会分を10名増やして20名とし、大学の30名と合わせて計50名とする。給付金額(1部生20万円、2部生10万円)に変更はない。

同窓生の声に応え マスク2000枚を大学に寄付

大樟会(同窓会)本部は、2020年5月11日(月)、マスク2,000枚を大学に寄付した。

新型コロナウイルス感染症の蔓延でマスクは世界的に品不足で、入手が困難となっている中、学生や教職員の皆様に使っていただくため、マスクを寄付してはどうかという提案が複数の同窓生から大樟会本部に寄せられていた。大学からは「同窓会のご厚意に感謝します。有効に使わせていただきます」と感謝の言葉が寄せられた。

新支部長就任の抱負

前支部長の遺志を継ぎ、前進します

滋賀支部長　**殿城 幸雄** 氏
(41回卒・2019年7月6日就任)

2019年(令和元年) 5月8日、佐藤啓太郎前支部長(37回卒)が逝去されました。同年7月6日に滋賀支部役員会が開かれ、副支部長でありました私が支部長の任を拝命いたしました。本来なら、滋賀支部総会で承認していただくところですが、「新型コロナウイルス感染症拡大」のため総会を開催できませんでしたので、ご了承願いたく存じます。

前支部長が日頃から口にされていた『融和(ゆうわ)と親睦』を大切にし、「同窓生の連絡充実・消息確認・各地区ごとの組織強化」を推進してまいります。併せて、在外教育施設ローマ日本人学校勤務(教頭職)の経験を生かして多くの大阪経済大学の学生・同窓生の方々に国際理解教育の大切さを伝えたいと思っています。

今後、大樟会滋賀支部の発展のため、微力ながら尽力いたす所存です。よろしくお願いします。

大経大 ここにあり

福山支部長　**岡崎 正廣** 氏
(37回卒・2019年11月24日就任)

備後支部は、2019年(令和元年)の支部総会で福山支部に名称を変更をしました。小池勝章前支部長(32回卒)は、支部設立以来情熱を持って支部運営に取り組まれました。私にはそれ程の力量はありませんが、先輩を見習い力を尽くしてまいります。

支部会員の高齢化が進み、年々、支部総会の出席者が少なくなっておりますが、「朋友有信」を旨とし、母校に誇りを持ち、堅い「絆」に感謝したいと思います。そして、卒業生の中に生まれた「伝える力」をもっと大きく育て、それぞれの思いを込めて支部活動を進めていかなくてはならないと思います。

大樟会を構成する一つの地方支部として組織発展のために努力する所存ですので、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

再建10年目の節目！ 若返りが急務

東播磨支部長　**宮﨑 善人** 氏
(43回卒・2019年10月26日就任)

東播磨支部は長く休眠していましたが2011年(平成23 年)に、大樟会本部事務局の方々のご尽力・ご支援により再建され、本年10年目を迎えました。再建初代支部長の西川嘉紀さん、2代の山本憲章さん、3代の福田敏裕さんの後を引き継いで4代目支部長を引き受けることになりました。

支部の現状としましては、昨年度総会には支部会員が18名(役員含む)参加しましたが、平均年齢70歳と高齢化の一途を辿っています。支部会員の親睦交流を深めることはもちろんですが、役員一同「若返り」が急務と認識しています。このままでは限界集落ならぬ限界支部に陥ると思っています。支部主導で手段を講じていきますが、限界がありますので、大学および大樟会本部と連携していきたいと思います。

再建10年目の節目の年、ご支援お願いいたします。

新型コロナの早期終息と支部総会の開催に向けて

但馬支部長　**中川 茂** 氏
(40回卒・2020年2月1日就任)

2007年(平成19年)の支部発足には関わったものの、発足後は仕事の関係で支部総会へも欠席がちで、先輩諸氏にご迷惑をおかけしましたが、微力ですが職務を全うする所存です。

但馬地方は、兵庫県全体の4分の1の面積を占め、会議の開催、新規会員の勧誘には苦慮していますが、支部の発展に向け、以下の点に取り組んでいきたいと考えています。

1　会員相互の情報交換を図り、古き良き大経大生時代を語り合い懇親を深める
2　本年度支部総会は、大樟会総会に合わせて開催し、母校の変容を目で見、また大学当局および大樟会の運営方針を耳で聴き、関心や理解を深めてもらう
3　会員登録されていない町や卒業生の多い事業所において会員獲得に努める
4　母校学生が但馬地域で行っている「地域支部活動」への協力を行う

役員、会員の皆様のご理解・ご協力と、積極的なご意見をお願いします。

多くの方が集い合える開かれた支部になるために

津山支部長　**藤井 治則** 氏
(46回卒・2019年8月24日就任)

私自身は津山支部がまだ支部昇格前の津山会の時代より参加させていただいておりますが、長い間大樟会津山支部総会の参加者は25名～30数名にとどまっています。現在、岡山県の北部地域には2019年の時点でわかっているだけで300数十名の卒業生がおられます。この方々が気軽に楽しく集い合える大樟会津山支部にしていかなければ今後の大樟会はないと考えています。

特に若い方々が集い合えて、それぞれの人生にプラスになる情報や考えを仲間や先輩方から吸収し、また先輩諸氏にとっては新しい感覚を若い後輩たちに学ぶような会ができれば最高だと思います。

同じ学び舎で多感な青春時代を過ごした者同士として、母校より遠く離れた津山の地において、諸先輩の皆様や多くの後輩の方々と津山支部を盛り上げていきたいと思います。

必然・必要と考え、ベストを尽くしたい

鳥取県支部長　**本庄 克則** 氏
(46回卒・2019年7月6日就任)

2019年(令和元年)の支部総会で秋口政俊前支部長(36回卒)よりバトンを引き継ぎました。新体制は昭和44年卒から平成9年卒までの役員14名でスタートしました。2年後の支部総会参加人数40名を目標としています。

これを実現するために、県内には約500名のOBが登録されており、就職先が多い金融機関や教員グループ内に世話人を置き参加を呼び掛けること、初参加や10年刻みで指定した卒業年度のOB参加費を優遇すること、県内外で活躍されている鳥取県出身のOBを招聘し、ご講演いただくこと、支部総会開催日を毎年6月の第2土曜日に固定し、参加意思のあるOBの日程調整をしやすくする、などの方策を決定しました。

私の支部長就任は、必然・必要のことだと覚悟を決め、ベストを尽くして元気な鳥取県支部にしたいと思います。

DAIKEIDAI INFORMATION

▸▸▸開催延期のお知らせ

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、右記のイベントの開催を延期することといたしました。例年、多くの方々にお越しいただいており、大変心苦しい限りではございますが、感染拡大防止のためにご理解ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

▶第33回教育懇談会

例年6月・7月に開催している教育懇談会について、慎重にその開催可否を検討してまいりましたが、開催を延期することといたしました。延期後の開催時期については、新型コロナウイルスの感染拡大状況を注視しつつ、現在は秋学期開始日以降で検討しておりますが、詳細については改めてホームページ・書面等でお知らせいたします。

▶2020年度 大経大パソコン教室

昨年に引き続き、今年9月に開催を予定しておりました2020年度大経大パソコン教室ですが、開催日を延期とすることにいたしました。多数の方々が集まる場での感染拡大の危険性、健康面、安全面を考えての判断であることをご理解賜りますようお願い申し上げます。なお、延期後の開催日時が決まり次第、大学ホームページ、大経大パソコン教室ページ等にてお知らせする予定です。

大阪経済大学ホームページ
https://www.osaka-ue.ac.jp/profile/kouenkai/dkdpc.html

大経大パソコン教室
https://oue-pc-class2020-information.webnode.jp/

お問い合わせ先
〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8
大阪経済大学大樟会事務室　パソコン教室 係
TEL：06-6328-2431（代）　FAX：06-6328-4564